

令和4年(2022年)

総会及び懇親会は中止と致します。

毎年恒例の9月に予定していました総会及び懇親会は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクがまだ続いており、室内で多くの人たちが集う会合の開催には踏み切れない状況にあります。よって、今回も昨年9月に続いて中止する方針になりました。今後、各行事の再開の目途がつきましたら会員の皆様のご参加、並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【総会議案】

会長 飯塚 修 代表幹事 林 明宏

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会の開催可否、総会議案につきまして、五役役員会(会長、副会長、正副代表幹事、監事、会計)でメール会議で検討しました。総会中止と総会議案内容を承認、決定しました。また各回幹事会に議案を送付し、各回幹事より了解を頂きました。本年も総会を開催できませんので本会報で報告させていただきます。ご了承ください。

1号議案 事業報告と事業計画

内 容	2021年度報告		2022年度計画・案	
総会 及び 懇親会		中止 会報による報告・承認		中止 会報による報告・承認
講演会及び新年会		中止	2023-1-下旬	東京富山会館 講師未定
各回幹事会	2021-7	メール又は郵送による	2022-8	メール又は郵送による
役員会		中止	2022-10	常任幹事以上役員 場所未定
関東越嶺会 会報	2021-7-25発行 2021-12-21発行	第55号 総会中止案内 書面による議案承認	2022-8-中旬	第57号 総会中止案内 書面による議案承認
		第56号 講演会・新年会案内・リレー雑記帳	2022-12中旬	第58号 講演会・新年会案内

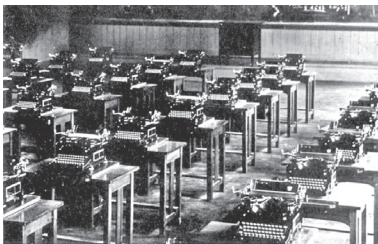
【交流会・親睦会】

内 容	2021年度報告		2022年度計画・案	
五福会 (ビジネス異業種交流会) 越嶺会+工・薬・理		中止	2022-11-中旬 2023-5月	開催見合わせ 第41回 東京富山会館
バーディー会 (ゴルフ親睦会)		中止	2022-10月 2023-4月	開催見合わせ 第55回 コース未定
e ワイン会 (お酒と料理の親睦会)		中止	2022-10月中旬 2023-4-中旬	開催見合わせ 第35回 会場未定
e トモ会 (若手会員の親睦会)		中止	2022 2023	開催見合わせ 第27回 会場未定
関東観て歩く会 (歴史に触れる散策)	2021-11-6(土)	第11回 六義園、飛鳥山公園方面で準備を進めていたが中止となった	2022-11-5(土)	第12回 六義園、飛鳥山公園方面

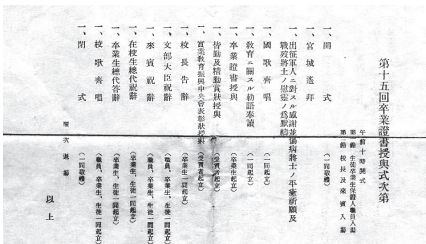
○高岡高商 15 回 本田健士氏(1993 年逝去) 遺品の一部、甥の本田孝範氏(世田谷区在住) よりご提示を受けました。



校 学 業 商 等 高 岡 高



室 教 デン テイ ラ フ ィ タ 校 学 業 商 等 高 岡 高



全景写真 高岡高等商業学校 昭和 14 年

タイプライティング教室 昭和 14 年

繰上げ卒業式式次第 昭和 16 年 12 月 28 日

年会費納入のお願い

☆当会の運営資金は皆様の年会費が頼りです!

会員各位におかれましては1口以上の年会費の納入をお願い致します。

■ 一口：2,000 円以上

■ 未納の方は同封の振込用紙にて、または郵便局窓口の用紙にて。

■ 口座番号：00100-5-371037

■ 名義：『関東越嶺会』

住所移転等は越嶺会事務局までお届けください。

勤務先変更も必ずお届けください。

ご本人からのお届けがないといつまでも変更されません。

〒930-8555 富山市五福3190
富山大学経済学部内 越嶺会事務局
Tel.076-445-6411 Fax.076-445-6419
e-mail: etsurei@eco.u-toyama.ac.jp
Webページ <http://www3.u-toyama.ac.jp/etsurei/>

2号議案 令和3年度収支報告と令和4年度収支計画

会計 草野圭司(学部28回) 柿本浩和(学部31回)

(1)収支報告(令和3年6月1日～令和4年5月31日)と収支計画(令和4年6月1日～令和5年5月31日)

(金 単位 円)

収入の部					支出の部				
項 目	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	項 目	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画
各回幹事会会費					各回幹事会費用				
総会懇親会会費					総会懇親会費用				
講演会新年会会費	0	260,000	0	260,000	講演会新年会費用	0	260,000	0	260,000
小計1	0	260,000	0	260,000	小計1	0	260,000	0	260,000
年会費(合計)	332,000	420,000	388,000	420,000	事務印刷費	127,234	200,000	124,850	200,000
受取利息	6		5		郵送費	0	10,000	2,220	10,000
					会議費	0	30,000	0	30,000
					新規会員開拓費	0	10,000	0	10,000
					年会費収納手数料	23,709	29,000	26,110	29,000
					振込手数料	1,320	3,000	2,288	3,000
					県人会年会費等	20,000	48,000	45,000	48,000
					五福会補助	0	20,000	0	20,000
					バ・ディ-会支援	0	20,000	0	20,000
					e ワイン会支援	0	20,000	0	20,000
					e トモ会支援	0	20,000	0	20,000
					関東観て歩く会支援	10,000	10,000	0	10,000
					慶弔費他予備費	0	0	13,576	0
小計2	332,006	420,000	388,005	420,000	小計2	182,263	420,000	214,044	420,000
					当年度収支差額	149,743	0	173,961	0
合計	332,006	680,000	388,005	680,000	合計	332,006	680,000	388,005	680,000

財産状況(令和4年5月31日現在)

借方の部		貸方の部	
現金	119,785	〈前年度繰越金〉	2,106,333
普通預金(三菱UFJ銀行)	483,195		
振替預金(郵便局)	1,677,314	〈当年度収支差額〉	173,961
合計	2,280,294	合計	2,280,294

監査報告:上記報告について会計帳簿、証票、通帳等を監査した結果、すべての内容と処理は正確かつ妥当と認めます。

令和4年 6月 1日
監事 盤若 義一(学部18回) 印
監事 西垣 栄一(学部28回) 印

年会費納入状況 (令和3年6月1日～令和4年5月31日)

卒回			人数			金額		
高商1			学部1			21	2	7,000
2			2	3	11,000	22	3	9,000
3			3			23	4	21,000
4			4	1	4,000	24		
5			5	6	12,000	25	5	16,000
6			6	1	2,000	26		
7			7	4	9,000	27	4	16,000
8			8	4	8,000	28	10	25,000
9			9	6	27,000	29	3	10,000
10			10	7	14,000	30	2	4,000
11			11	2	10,000	31	1	2,000
12			12	4	26,000	32	2	8,000
13			13	2	4,000	33	3	11,000
14			14	2	7,000	34		
15			15	5	17,000	35	1	2,000
16			16	1	2,000	36		
17			17	2	4,000	37		
18	1	2,000	18	9	36,000	38	1	2,000
19			19			39		
高商計	1	2,000	20	2	4,000	40	1	4,000

昨年度実績(令和2年度) 106名 332,000円

5千円以上の高額納入者

(敬称略)			
学部2回	川西	光治	5,000
学部9回	重田	直彦	5,000
学部9回	山村	幸雄	10,000
学部11回	石出	宗秀	5,000
学部11回	塚	光雄	5,000
学部12回	打田	純	20,000
学部14回	渡邊	慶孝	5,000
学部15回	杉本	順作	5,000
学部18回	長谷川	健郎	5,000
学部18回	盤若	義一	10,000
学部18回	福田	哲郎	5,000
学部21回	永井	雅律	5,000
学部22回	竹沢	喜孝	5,000
学部23回	橋本	邦雄	10,000
学部23回	平方	睦男	5,000
学部25回	飯塚	修	5,000
学部25回	村山	修	5,000
学部27回	角	昌佳	10,000
学部28回	西垣	栄一	5,000
学部33回	小川	晴美	6,000
学部44回	武井	和雄	14,000
学部47回	堀入	正和	5,000
短大4回	土屋	民雄	5,000
短大4回	藤岡	敷	5,000
短大5回	檜崎	進	5,000

3号議案 役員人事 (令和4年度新体制)

役 職	氏 名	卒 回	役 職	氏 名	卒回	役 職	氏 名	卒 回
会長	飯塚 修	学部25	常任幹事	清水 道夫	学部11	常任幹事	立田 征夫	短大5
副会長	大松 日出夫	学部5	〃	飯田 捷政	学部12	〃	檜崎 進	短大5
〃	塚 光雄	学部11	〃	今井 修一	学部19	最高顧問	古澤 英雄	高商12
〃	永井 雅律	学部21	〃	平方 睦男	学部23	顧問	折橋 禮一	学部2
〃	土屋 民雄	短大4	〃	宇波 浩	学部24	〃	安倍 樹	学部7
監事 新任	村山 修	学部25	〃	宮下 佳蔵	学部25	〃	石出 宗秀	学部11
〃	西垣 栄一	学部28	〃	高須 康之	学部26	〃	渡邊 慶孝	学部14
会計	草野 圭司	学部28	〃	前田 昭夫	学部27	〃	福田 哲郎	学部18
〃	柿本 浩和	学部31	〃	石嶺 正夫	学部30	五福会会長	西垣 栄一	学部28
代表幹事	林 明宏	学部28	〃	伊東 春生	学部33	パーティ会代表世話人	今井 修一	学部19
副代表幹事	一		〃	横井 靖	学部33	e ワイン会世話人	村山 修	学部25
常任幹事	桑野 重英	学部5	〃	吉澤 斉	学部35	e トモ会世話人	伊東 春生	学部33
〃	中島 正彦	学部6	〃	鈴木 造	学部37	e トモ会世話人代行	三浦 徹	学部55
〃	島田 雄達	学部7	〃	鎌仲 昌彰	学部37	関東観て歩く会世話人	渡邊 慶孝	学部14
〃	小川 豊	学部8	〃	石橋 哲也	学部47			
〃	宮前 喜久次	学部9	〃	三浦 徹	学部55			
〃	中山 賢治	学部10	〃	神田 将司	学部57			

会長及び監事は総会において選任する。(関東越嶺会規約第6条)
役員の任期は2年とし、再任を妨げない。(同、第9条) 現状、副代表監事は空席

本年11月5日(土)予定
関東観て歩く会行先(抜粋)



六義園



古河庭園



会長 飯塚 修
(学部25回)



代表幹事 林 明宏
(学部28回)

寄稿Ⅰ

◆日本酒の縁◆

会長 飯塚 修 (学部25回)

アサヒビールをリタイアした直後の平成26年(2014年)の6月上旬、アサヒビールの先輩2名とともに2泊3日の富山旅行に行きました。それから8年経過しましたが、今なお大変思い出深い旅行であったと思っています。この旅行の経緯や内容はこの後に述べます。

私は、平成15年(2003年)9月に、当時はアサヒビールの資本傘下であった大阪市の酒類食品卸会社(株)ワイネッツ(現:西日本国分(株)以下「Y社」という)にアサヒビールから出向しました。このY社は、酒類・清涼飲料・食品等を主に小売りである一般酒販店・その他商店に卸売りをしていました。

そのため、日常は各酒類メーカー等の営業の方々が来社され、Y社の営業部隊に対して新商品の説明、キャンペーン等の案内をされていました。それをY社の営業部隊が、一般酒販店等に展開するわけですから、メーカーの営業の方は、Y社の朝礼・会議等も活用され自社商品のアピールをY社の営業部隊へされていたわけです。メーカーの方は、ビール、日本酒(清酒)、焼酎、ワイン、清涼飲料水等、様々な会社です。

私の当時のY社での職務は管理本部長であり営業ではないのですが、メーカーの方が営業業務を終えた後に同じ事務所に席のある私にも多くの方が挨拶に来られました。この時に頂戴した各メーカーの方々の名刺は20年近く経ちましたが、今も大事に保管しています。この時に出会ったのが、富山市百塚の清酒醸造元の富美菊酒造(株)羽根昭社長(当時:以下昭社長という)でした。「羽根屋ブランド」の醸造元です。

当時はワインブーム、焼酎ブーム、ビール類新ジャンル等の個別の隆盛はあったものの、現在もそうですが酒類消費については減少トレンドに入っていました。その中であって、特に日本酒は、出荷量が焼酎に抜かれる等の厳しい状況でした。Y社も小売店も取扱い数量が減少していききました。そのような状況下で、富山から大阪方面に営業で来られた昭社長は大変ご腐心をされたことと思います。商談も順調に進まないこともあったかと思いますが、私が富山大学OBであるということをご認識されてから、しばしば自席に立ち寄られました。私も営業でなく、ビジネスのお話は具体的にはできませんが、富山に関係するお話を諸々いたしました。昭社長も少しはほっとできたのかもしれません、こちらも懐かしい思い出の富山のことから、実務をしばしば忘れ嬉しくなりました。

平成20年にY社は、M&Aにより国分(株)グループとなり、私は5年間の勤務を終えアサヒビールに復職しました。その後の平成26年4月にリタイアしました。ここで、冒頭の富山旅行のことに戻ります。

私がリタイアすると、既にリタイアされているアサヒビールの先輩が、「富山旅行がしたい、については富山詳しいだろうから、案内して欲しい。」と提案してきました。私も喜んでこれを受けましたが、さて、何処を回ろうか、立山方面登山は無理か、先輩はお酒と温泉好きだし等々考えました。そこで、富美菊酒造さんの見学が思い浮かび、昭社長に電話でお願いしたところ、快くご承諾いただきました。

旅行初日は、魚津市の富山大学サッカー部同期の田中譲さんが、水族館・海鮮市場・寿司店等を案内してくれました。その晩は金太郎温泉に泊まりました、広くて石積みの見事な温泉を楽しみました。

2日目午前中は、いよいよ富美菊酒造さんの見学です。富山駅からタクシーで到着後はご自宅で昭社長としばしば昔話し等。その後、ご子息の羽根敬喜さん(現:社長)のご案内で酒蔵を見学しました。醸造のプロセスを丁寧に順に説明頂きました。昔との違いや何かに注意しているか等々、酒造りへの熱意を感じました。

見学のお礼を述べ出立しようとしたところ、昭社長の奥様から昼食を予約しているから行きましようとのこと、とんでもないサプライズを頂戴することとなりました。奥様の運転で昭社長・我々3名とともに富山市内の格のある天麩羅屋に急行、富美菊酒造さんのお酒も用意されており、天麩羅・お酒に大満足でした。実は私は、母校である富山大学の見学方々、昼食は学食で済まそうかと思っていました。このご配慮に有難く感謝致しました。昼食後に富美菊酒造さんとお別れし、我々3名は富山城の見学に向かいました。富山城の後は、薬の博物館を見学して氷見の民宿に向かいました。3日目に氷見の観光船に乗りましたが、この日も晴れでした。沢山のカモメが観光船の周りを飛び交い、我々はエビセンを空中の彼らに与えて遊覧を楽しみました。なんと乗船客は我々3名だけでしたので、下船後、船主が特別にほたるいか沖漬け瓶詰3名分をお土産に用意してくれました。乗船代の2倍以上の高級品のプレゼントでした。

このように富山の旅は無事に楽しく終え東京に戻りましたが、大阪Y社の出会からの富美菊酒造さんとのつながりを、感謝いたしました。残念ながら昭社長は、我々の見学の翌年に逝去されましたが、現在は敬喜社長が精力的に旨い酒造りをされています。同窓会等のイベントでは、「羽根屋」を揃える等して引き続き関東の地から微力ながら応援しています。

寄稿Ⅱ

◆紙上の活字からポストモダンを可視化してみる◆

代表幹事 林 明宏 (学部28回)

茨城県つくば市の中心部にランドマークのようにホテルやホール、オフィス、市民便施設などが入っている「つくばセンタービル」が聳(そび)えている。これは1983年に完成した磯崎新の設計によるもので、当時からバブル期にかけて流行った建築におけるポストモダニズムの嚆矢(こうし)と呼ばれている作品である。壁面各所に配置されたプリミティブな図形による造形やローマのカンピドリオ広場をイメージした屋外広場の独特な模様は何かを語り掛けているようだ。最近、広場へのアプローチとして計画されたエスカレータ設置が撤回され、つくばセンタービル全体の原型をできるだけ保ち続けることができるようになった。

磯崎新の自著『ポスト・モダン原論』(週刊本17)(1985年1月号)の中で「～(近代建築が)一切の歴史的な建築様式と絶縁したように思っている、建築と真正面から取り組みはじめると、空間の幾何学性というレベルにおいては歴史的建築の中に全て試みつくされていた、～さまざまな参照物としてある物が引用可能な状態に常に我々の目の前に整理され始めてきた～一切の創造は歴史的建築への参照なしで可能とするモダニズムの思考の呪縛から解放された～」と述べている。実際に各地に現存するポストモダニズム様式の建築物と向き合えば、上記の磯崎の説明は「なるほど」と理解できるのではないと思われる。

最近の世界の情勢に関連して戦争状態にある地域についてかなり踏み込んだ論考をまとめた書籍に『総特集・ウクライナから問うー歴史・政治・文化』[現代思想](2022年6月臨時増刊号*青土社)がある。まず、対談「戦争とアイデンティティの問題」で池田嘉郎(露近現代史)が現在でも影響力があると言われるポストモダン歴史学を学んだメディンスキー(露元文化大臣)が語った「歴史とは解釈であり、解釈だから事実ではないのだ。」を引用して解説した。また「ロシア的身体」のセクションでは畠山宗明(映画研究)が「1980～90年代のロシアでは、どれだけ社会が変化しても変わらないロシア性が、しばしば西洋のポストモダン哲学と関連づけられてきた。」と述べている。500年以上に亘って国家のレジーム(体制)が変遷を辿ってきても独裁者によって翻弄されてきた歴史など体質は変わっていないところを指すのだろう。それから、「混沌から分断へ」の一節では、松下隆志(露文学)がネオ・ユーラシア主義(自国領土をポストモダン型で相対化)の思想家アレクサンドル・ドゥーギンについて触れている。「知識人の苦悩」では、

ウラジミール・ソローキン(作家1955～代表作『青い脂』『テルリア』『マリーナの三十番目の恋』など、ベルリン在住)の名前も上がった。

ポストモダンのように多様な立場から考察され、ナショナリズムの台頭に見られるような政治の都合にも利用されてきた概念・現象は社会科学の思想としていかなるものか。それらは歴史や理念の解釈で暴論化し、社会の不寛容性に繋がりがやすいので、私ならそれに対峙していくことになるだろう。

ロシア～ウクライナについては戦争をやっている場合ではない。

情報環境が変化した現在は、事実の一つなのに真実と称する複数の情報(中には真逆も)が回り再生産されるケースが目立つ。検証に基づいたファクトチェックが望まれる。

《注釈》

●ポストモダン:人類が幸福に向けて進んでいく歴史[大きな物語]をモダン(近代)として定義した上で、その[大きな物語]に対する不信として[対比される形]で定義された考え方。ジャン・フランソワ・リオータルによって哲学に昇華された。(参考:imidas'99書籍版*集英社)富山大学関係では、駒城鎮一名誉教授(1935-2017、高岡市出身)が『法と経済学、あるいはポスト・モダンの法理学』など3編の論文を遺した。(富山大学紀要;富大経済論集)また、小倉利丸元経済学部長による論評『クリティーク14特集:漂流するポストモダン』(青弓社1989年)、同ブログ「ne plu kapitalismo」内タイトル「帝国の逆襲～」などがある。

●磯崎新:(1931～)建築家。師匠の丹下健三と共に大阪万博(1970)のお祭り広場を設計。科学技術や歴史に問いかけながら建築設計や都市計画に携わってきた。記念碑的な作品群は国内、海外の各地に及ぶ。富山県では、県立立山博物館、利賀山房&野外劇場。

●国内のポストモダニズム建築(抜粋):湘南台文化センター、水戸芸術館、東京都庁舎、江戸東京博物館、スーパードライホール・オブジェ(アサヒビール吾妻橋)、東京メモリアルホール(世田谷区砦)、青山製図専門学校、東京工業大学百年記念館、幕張総合高校、JR名古屋セントラルタワーズ、京都駅ビル、京阪宇治駅舎、ザ・ペーシックス福岡、南海電鉄「ラビート」、など

●週刊本:1984年から1985年まで44週間分(44巻)朝日出版社より刊行。当時のニュー・アカデミズムを中心に扱った。1巻につき1名の著名人。編集人は中野幹隆(1943-2007 学部15回)

●現代思想:1973年より青土社から毎月発行。随時臨時増刊あり。特集テーマがメイン。初代編集長は中野幹隆。

リレー雑記帳

第14回

『私が最近想っていること』

□ 福井 幸博 (院9回)

私は、石川県金沢市にある地域活性化をミッションとする団体で働いています。私自身の専門は、前職の会社で約30年間BtoBの営業を行った経験から、マーケティングを考えています。

今年5月に、石川県の伝統産業である「輪島塗」を製造販売している輪島市内の事業者から相談を受けました。その事業者は新型コロナウイルス感染拡大前には年間約1億円の売上がありましたが、新型コロナウイルスの影響を受け売上が半減しているためV字回復を目指したいという内容でした。

『伝統産業』とは、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」で指定される伝統的工芸品産業のことで、法律による指定要件を満足するものです。

伝統産業製品は、日本の高度成長期に大量生産・大量消費の経済構造が確立した結果、低価格の生活用品が大量に供給されるようになり、価格・量産性の両面で近代工業製品に圧迫されシェアを低下させました。生活様式は、かつては、農林業主体であった社会状況を反映し、夏祭りや秋祭りに代表される豊作祈願の祭礼、結婚式、葬儀などにおいて、自宅に親類や近所の知人等が集まって手料理がふるまわれ、漆器の御膳等が各家に揃っていました。このような伝統的な行事・生活文化は、生活様式の洋式化・都市化・核家族化が進む中で衰退しました。

石川県の伝統産業全体の生産額は、下図のようにバブル景気下の1990年度に1,067億円をピークに、2019年度は227億円と約1/5に減少しました。2020年2月から新型コロナウイルス感染拡大の影響から生産額は一層減少し、職人の担い手不足、高齢化の進展から技術継承が危ぶまれ、産業自体の消滅の恐れも出てきました。輪島塗の起源は諸説ありますが、最古の輪島塗は「重蔵権現本殿朱塗屋」で室町時代の大永4年(1524年)作といわれ約500年の歴史があります。現在の輪島塗が抱える主な問題は、次のとおりです。

■原材料の確保

天然漆は90%が中国産で中国産漆に依存していますが、日本向け漆を生産している中国陝西省では漆の木が減少している。

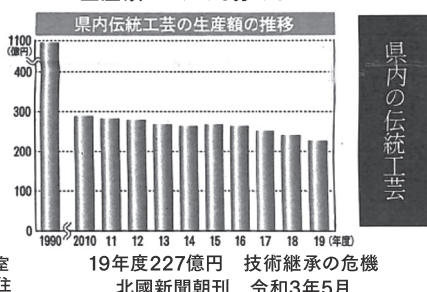
■後継者難

現状では生活を成立させるだけの収入の確保が困難になりつつあり、後継者の確保がたいへん難しくなっている。

■販路開拓・新製品開発

バブル経済期は高額商品を販売しましたが、現状では高額商品は売れない。

生産額ピークの5分の1



福井 幸博

大学院9回卒 清家彰敏研究室
2004～2008年、関東地区在住
現在、金沢市在住

～伝統産業の復活を目指して～輪島塗再興に向けたアクション

この相談の対応には、富山大学経済学部で学んだマーケティングの知識が役立っています。大学では「マーケティングの4P」を勉強しましたが、これはメーカーのマーケティングです。経済環境の変化に対応しマーケティング理論も変遷していますので、本等により新しい知識を収集しました。佐川幸三郎は著書「新しいマーケティングの実践」(プレジデント社、1992年)の中で、「マーケティングの目的は競争に勝つ市場創造であるが、企業がそれを実現するためには、マーケティングの他に、独自の創造的なハード並びにソフトの技術を開発し蓄積していなければならない。即ち、マーケティングとR&D(研究開発)の併存が条件であり、この両者は切り離すとそのいずれもが効果を発揮することができない。」と述べています。これから輪島塗の売上拡大には、顧客との接点を重視するサービス・マーケティング、経験価値マーケティング等とR&Dとして輪島塗の新商品開発が必要に気がつきました。

例えばホンダでは、オートバイという伝統産業同様に需要が減少中の商品に対する価値観の研究を進め、若者はオートバイを自己表現の道具として見ているという結論を導き出しました。その価値観に基づいて、世界に1台の「自分だけの仕様」のオートバイを販売し成功しました。

現代の消費者はモノ自体が目的で買うのではない。もし、それがあつたらどんな生活になるだろう、という夢を買っています。消費者は基礎的な部分を充足させるニーズではなく、特別なものを入手する満足感を与えるウォンツにより動かされています。ニーズ充足の買物は常に低価格であり、ウォンツを満たすことでしか企業に利益はできません。輪島塗という高品質の商材(モノ)だけではなく、コトで売る新しいビジネスモデルの創出に向け、輪島塗が持つ顕在化していない価値観の研究が必要です。

以下は小職が検討中の主な対策です。

①既存顧客のロイヤリティを高める対策:

■得意先(鰻屋、蕎麦屋、日本料理店他)を会員とする「会員クラブ」を設立し、輪島塗をコアとするライフスタイルを提案しコミュニティーを作ります。共通する考え方を共有できるメンバー、ウマが合うメンバーが集まって友好を深める場です。

■「保証のない販売はしない」を実施し、顧客一人一人を把握します。顧客との関係構築、関係の深化というカスタマー・マネジメントをシステム化し、カスタマー名簿を集める。

②新規見込み客を集める対策:

■近年は健康を重視する自然素材で建設する「健康住宅」の需要が増えている。漆は抗菌作用を持っているので、新商品として漆を塗った住宅建材市場を拡大させる。

■AIを活用したマーケティング・オートメーションを導入し、得意先が多い鰻屋・蕎麦屋・日本料理店他を対象に、自動化したマーケティング活動を行ない新規見込み客開発に取り組む。

輪島塗だけでなく、全国には多数の伝統産業があり長い歴史を持っていますが、廃業すると歴史が途絶え文化が消えます。2000年以降はゼロ経済成長になったことから、これまでのやり方は全てダメで、改革が必要ということをマスメディアが繰り返し情報発信していますが、これを聞いた社会があらためてしまい、元気が喪失した社会になっているように見えます。逆に元気が出る情報発信を期待したいと思います。

伝統産業の技術は、一度失われると回復に長い時間が必要ですので、消滅しても仕方がないでは、すまないと思います。急いで輪島塗に対する新しいライフスタイルに合致する価値観の発見に取組み、日本全国の伝統産業を復活するライフスタイル・マーケティングを開発し、日本人が積み上げてきた伝統を大切に守りたいと考えています。



伝統的食器類



現代感覚の食器類

(藤八屋〔輪島市〕カタログより)

行事告知 □ 第12回「関東観て歩く会」ご案内

江戸の昔・本郷辺りから北に延びる岩槻街道沿いは農村地帯で、野菜や庭木・盆栽づくりなどの近郊農村でしたが、明治以降、急速に都市化されました。特に、大名庭園・六義園と八代将軍徳川吉宗が多くの桜を寄進して、町民の花見遊山の地として開放した飛鳥山が有名で、明治以降は、軍事・製紙・紡績等、近代工業の中心地となりました。

今回は、六義園、旧古河庭園、平塚神社、地震の科学館、国立印刷局、西ヶ原一里塚、飛鳥山公園(飛鳥山博物館、紙の博物館、渋沢栄一史料館)、王子権現、王子稲荷、名主の滝公園を巡る予定です。歩程は約5km。お気軽に参加申し込み・問い合わせくださるようお待ちしております。

REPORT □ 薬窓会首都圏支部総会(薬学部同窓会)

6月25日(土)14時より富山薬窓会首都圏支部総会が、AP東京八重洲(中央区京橋)にて開催されました。現地会場参加(25名)とオンライン参加(24名)のハイブリッド形式でした。関東越嶺会はオブザーバーとして、会長:飯塚(現地)と代表幹事:林(リモート)の2名が参加しました。

高瀬明子支部長の挨拶、来賓挨拶、議事、話題提供(会員によるミニ講演)の構成となっており、このコロナ禍で懇親会は無し、となりました。

富山大学薬学部長の酒井秀紀氏の挨拶では薬学部の現状や今後の課

『江戸・岩槻街道沿いにみる大名庭園と庶民の飛鳥山公園』

□ 日時: 2022.11.5 (土) 9時30分 小雨決行

□ 集合: JR山手線駒込駅改札口出た所 持ち物: 雨具と防寒具

□ 申込: 下記宛メール又は電話にて 10月20日迄

□ 世話人 渡邊慶孝(学部14回)

yoshiwata02@tbm.t-com.ne.jp ☎090-9646-6308 (SMS可)

題等が報告され、学部と同窓会の繋がりは強いと感じました。審議・承認事案では、活動報告や会計報告、活動計画と予算案が報告されました。話題提供では、2名の会員が現在取り組んでいる課題を映像を使い熱心に報告され、質疑応答にも応じられていました。開会から閉会まで約3時間ほどでした。

コロナ前のように気軽に大勢が集まることが、簡単にできなくなりました。このような中、リモートを交えた一歩進んだ同窓会のスタイルで、大変参考になりました。 記/飯塚 修(学部25)

NOTE

会報37号～57号は入稿時のPDFデータがあります。御覧になりたい方はお申し付けください。また会報記事向けの原稿は随時募集しています。

代表幹事 林明宏(28) utanokami682@gmail.com 090-4886-0327